

2020年東京オリンピックにおける空手道の競技実施を求める意見書

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催は、国民がスポーツに親しむ機会を広げるとともに、スポーツを通じて日本と世界の人々が友情と相互理解を深め、日本人の心や文化を全世界に発信する絶好の機会である。

沖縄で生まれ、沖縄の歴史と風土の中で育まれ、洗練されてきた空手道は、今や国境を越えた世界的な武道として普及発展してきた。現在では、180カ国以上、約6000万人もの空手愛好家がいると言われ、国際的にも評価が高い沖縄の文化遺産である。

このように、日本のみならず世界になじみの深い空手道がオリンピック正式種目に採用され、日本代表選手が世界中の人々の注目を集める競技舞台で活躍することは、我々国民に大きな感動と夢を与えると同時に、空手道の持つ魅力をさらに世界中に広めることにもつながり、競技の一層の普及発展のために大変意義深いことである。2020年大会が東京で行われるこの好機を捉え、空手道を愛好する全ての国民の声を結集し、空手道の魅力をI O Cを初めとする関係者へ届けていく必要がある。

また、沖縄県は空手発祥の地であり、「礼節」と「型」を重視する沖縄の空手は、人格形成、健康維持、護身を目的として、子どもから大人まで多くの県民に親しまれている。沖縄県としても、空手のさらなる普及・発展を目的として、沖縄空手会館を平成28年度の供用開始に向けて整備するほか、ユネスコ無形文化財への登録に向けた取り組みや空手の国際セミナーの定期的な開催など積極的に空手を振興する施策を実施しており、本県は、空手道の競技会場としてふさわしい場所である。

よって、沖縄県議会は、2020年東京オリンピックにおいて空手道の競技実施を強く求めるとともに、沖縄県をその競技会場に選定していただくよう要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年12月24日

沖 縄 県 議 会

衆 議 院 議 長
参 議 院 議 長
内 閣 総 理 大 臣 } 宛て
東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

議員提出議案第5号

2020年東京オリンピックにおける空手道の競技実施を求める意見書

上記の議案を会議規則第14条第1項の規定により提出する。

平成26年12月22日

沖縄県議会議長 喜納昌春 殿

提出者	翁長政俊	上原章	砂川利勝
	座喜味一幸	新垣哲司	仲村未央
	崎山嗣幸	玉城満	瑞慶覧功
	玉城ノブ子	儀間光秀	具志堅徹
	比嘉京子	比嘉瑞己	西銘純恵
	新田宜明	花城大輔	具志堅透
	大城一馬	渡久地修	山内末子
	仲宗根悟	照屋大河	呉屋宏
	吉田勝廣	又吉清義	島袋大
	中川京貴	赤嶺昇	新垣清涼
	新垣安弘	當間盛夫	前島明男
	照屋守之	新垣良俊	仲田弘毅
	嶺井光	嘉陽宗儀	玉城義和
	奥平一夫	新里米吉	高嶺善伸
	狩俣信子	金城勉	糸洲朝則
	具志孝助		

理由

2020年東京オリンピックにおける空手道の競技実施について関係要路に要請するため。